



(本 社)

株式会社豊工業所

和歌山市雑賀崎

社会基盤の整備・発展の一翼を担って



代表取締役
久保晋典さん

◇御社の歴史を教えてください。

当社は昭和八年に東京都で砂利採取船修理の鉄工業および砂利採取業として創業。その後満州国で、豊満ダム工用の骨材を納入する事業を経て、昭和二十九年に和歌山市で鉄工業・砂利採取業を再開しました。昭和三十三年に株式会社として改組し、昭和四十六年の兵庫県赤穂における建材事業を開始、また昭和三十六年から行っている鉄構事業部工場は平成一〇年に現在の雑賀崎に新築移転しました。この二つの事業を柱として現在の株式会社豊工業所につながっています。

◇「ものづくり」へのこだわりは？

当社の建材事業部は、原石から積み出しまで、大規模なトンネルに設置したベルトコンベア（全長五キロメートル）で運んでおり、日本で最も規模の大きな生産体制になっています。また、鉄構事業部は、橋梁・水門関係の設計・製作を行っており、和歌山県・国交省等の仕事を受注しています。平成一二年にはISO九〇〇一の認証を登録し、品質方針に基づいた設計・製作を行っています。

◇従業員の人材育成は？

工場に採用されると、糸面取りなどの前加工から入り、橋梁に関する知識や溶接の初歩的な仮溶接から経験を積ませ、溶接ができる上司が判断すると実戦に投入します。少なくとも五年以上はかかります。当社は、鋼材を加工・溶接・組立するまでを、全て社内で行っているため、各従業員の多能工化を図っています。最初は小物部品から始まり大物部品へと少しづつレベルを上げていきます。

人材育成はOJTを中心に行っていますが、非常に時間がかかります。そのため、例えば溶接では、いろいろな溶接の指導を先輩から受けますが、それだけではなく、溶接競技会へも参加しています。競技大会へも参加が上ります。昨年開催された和歌山県の競技会では優勝しました。

時間がかかる育成の極めつけは歪取り・FP（完全溶込）溶接です。これは簡単には身に付きません。到達レベルがどこまで達するかは、人によって異なりますが、中小企業特有の家族的な雰囲気の中で育成に取り組んでいます。

◇この仕事を目指す人へ伝えたいことは？

この仕事は、「もの」が残るといふことです。自分たちのつくった橋が残るといふことには、大きな達成感があります。これにつぎると思います。

◇ポリテクセンターから採用した感想は？

今回は、初めて女性を採用させていただき、様々な準備をいたしました。入社していただき職場の雰囲気の良い影響を与えてくれたと思います。採用した方は、基本的なことは出来ています。これからさらに戦力として育成していきたいと考えています。

◇ポリテクセンター和歌山に期待することは？

初心者の方も採用しています。やはり一定の教育・訓練を受けている人は違いますね。こういう訓練を受けた人は、自らの意思で、訓練を受けていることから「意欲」、「積極性」、

修了生の声(溶接加工科)

溶接加工科 平成30年6月修了
脇田 咲子 さん



ポリテクセンターへの入所は、以前に、居酒屋（アルバイト）で勤めていましたが、母から「ポリテクセンターに溶接科があるよ。」と勧められ、昔から「ものづくり」が好きで、短大で少し勉強したこともあったため、



(工 場 内)

「やる気」が、全く違います。そこを評価したいと思います。新卒の人とは大きく異なることです。来年には、工場内の溶接エリアに空調設備（冷風）を導入する予定です。職場の環境の改善も図っていきますので、是非、多くの人に応募していただければと思います。
(令和元年6月取材)

入所しました。ポリテクセンターでは、溶接の方法・技術だけでなく、年齢層が広いので、人生の経験、他の仕事の内容など、色々なことが学べました。現在の仕事は、橋梁組み立てで、主に仮付け作業を行っています。将来は、周りの人から必要とされる人材になりたいと思います。これからポリテクセンターに入所される方は、何もわからない状態でも、先生・先輩方が優しく教えてくれます。興味があることはなんでも実践してください。いい人生の経験になると思います。スキルアップを目指して頑張ってください!!